



日本国際教育学会

JIES NEWSLETTER

December 2011 No.23

ニューズレターダイジェスト

- 第22回大会報告
- 秋季大会の感想
- 大会収支報告
- 第22回総会議事録
- 決算報告と予算案
- 2011-2012年度役員一覧
- 事務局だより
- 紀要『国際教育』第18号原稿募集
- 2012年春季研究会のお知らせ



第22回大会 公開シンポジウム
(2011年9月10日、首都大学東京)

第22回大会報告

1. 日本国際教育学会 第22回大会実行委員会報告

大会実行委員長 岩崎 正吾 (首都大学東京)
大会事務局長 木田 竜太郎 (早稲田大学・院生)

日本国際教育学会第22回大会は、2011年9月10日(土)・11日(日)の両日、武蔵野の杜・多摩丘陵に広がる首都大学東京・南大沢キャンパスにて開催されました。

1日目は、午前中に4つの自由研究発表分科会が設けられ、理事会・総会をはさんで午後からは公開シンポジウム『21世紀を生きる学力とは何か―学校学力から生涯学力へ―』が行われ、パネリストとして文部科学省生涯学習政策局長の板東久美子氏、江東区立亀高小

学校長の田中康雄氏、都留文科大学副学長の福田誠治氏をお迎えし、国内外の政策・研究動向と現場からの問題提起をふまえた自由闊達な議論が展開されました。コメンテーターは前田耕司会長（早稲田大学）、司会は佐藤千津理事（東京学芸大学）が務め、生涯的展望に立った学力形成のための学力観—すなわち「生涯学力」の在り方について、学部学生や一般参加者も含めた多くの聴講者が熱心に耳を傾けました。同日夜には同大学生協食堂において交流会が催され、サプライズ・ゲストとして日本における馬頭琴演奏の第一人者・セーンジャー氏が登場するなど、楽しい宴となりました。

2日目は、午後の4つの自由研究発表分科会に先立ち、午前中に2つの課題研究発表会が開催されました。第1会場のテーマは『国際移動と教育—外国人児童・生徒の学力形成—』（発表者：三輪千明会員、中島久朱会員、中田麗子会員、布川あゆみ会員）、第2会場では『グローバル時代の日本における「教育の機会均等」の意義と課題』（発表者：堀尾輝久氏、野元弘幸氏、ロバート・アスピノール会員）について、両会場とも多数の聴講者を集める中で、多くの示唆に富んだ発表と質疑が交わされました。

今回の秋季研究大会は、39件の自由研究発表（申請40件）、計131名もの参加者（公開シンポジウム入場者・招待者・学部学生等を含む）をお迎えし、台湾の国立暨南国際大学をはじめとする海外の学会員の発表も10件に上りました。さらには板東久美子氏をはじめとする政策当局のキーパーソン、堀尾輝久氏をはじめとする学界の重鎮にご登壇をいただくなど、質量ともに極めて充実したものとなりました。これも多くの会員の皆様の御協力のおかげと、実行委員一同、改めまして厚く御礼申し上げます。また理事会の御英断により、学部学生の大会参加費が無料とされたことも、大会の盛況と今後の学会の発展に大きく寄与するものと歓迎致しております。日本国際教育学会のますますの隆盛を心より祈念申し上げますとともに、来年度、国際教養大学における第23回大会にて再び多くの会員の皆様にお目にかかれそうですようお願いしております。

2. 秋季大会の感想

日本国際教育学会第22回大会に参加して

B. M. プリヤンタ ラタナーヤカ（首都大学東京・院生）

私は日本国際教育学会に会員になって3年になりますが、今回初めて発表のチャンスを受け、大変感謝しています。特に、今回の大会は、自分の所属する大学で、自分の指導教員の先生のもとで、大会の準備をいろいろと手伝うことができ、とても勉強になりました。学会運営の作業を手伝いながら、長期にわたり、様々な課題を解決していくことが如何に大変かを私自身身にしみて感じました。

また、本大会では、日本国際教育学会の会員の皆様方とお会いできるのを楽しみにしていましたが、まさに国際教育学会という名前の通り韓国、中国、台湾、モンゴル、内モンゴルなどの方々とお会いできただけでなく、私の国のスリランカと同僚の発表もあり、それぞれの国々の教育に関する研究、その背景にある文化や社会の問題などについて深く学ばせていただき、とてもよかったですと思います。

今回、私自身が最も印象に残ったのは、私の論文発表後に会員の皆様から論文に関する様々な角度からのご指摘を受け、色々なことを教わる事になった事です。会員の皆様からのご指摘の内容を、これからの自分の博士論文の作成に活かしていきたいと思っています。自分の論文には更なる研究が必要であり、どの部分が不足しているのかを発見する事が出

来ました。学会での論文発表を通し、お互いがディスカッションすることにより、自分自身に今まで見えてこなかった新たな課題が見えてきたと思います。

今度の学会で、自分自身で経験して見て最も重要だと思ったのは、発表の際に多言語の使用ができたことです。特に台湾から来た留学生は、日本語は少しでも話しませんでしたが、英語で自由に発表できたのはすばらしいことだと思います。これは、日本国際教育学会ならではの特徴だと思います。

最後に会長を始め、学会の役員の皆様及び会員の皆様のご協力があり、今回の私の発表も無事終了することが出来ました。また、学会がどのように運営されるのかも経験することができました。皆様に対して深く感謝申し上げます。また機会があれば、再び大会にて皆様と交流が出来る日を楽しみにしています。

日本国際教育学会第22回大会に参加して

申 育誠 (東北大学・院生)

日本国際教育学会第22回大会 2011年9月10日(土)・11日(日)に参加させていただき、誠にありがとうございました。大会は首都大学東京・南大沢キャンパスにて開催されました。

日本国際教育学会に参加させていただき、世界各国の教育事情へと関心が広がっていきましました。今回の発表では、日本統治時代の台湾における修身教育の内容を発表しました。発表後、皆様から今後の研究についての良いアドバイス・ご意見多くいただき、かなり勉強になりました。外国人として拙い日本語で研究関心を発表させていただきましたが、懇親会で多くの先生方や院生の方々と出会って言葉を交わして本当に楽しかったです。とくに、自由発表では参加された先生方が私の研究発表に不十分な部分についてはっきりと指摘していただき、本当にありがとうございました。

この貴重な経験を今後の研究に活かしていきたいと思います。この「日本国際教育学会」の先生方と先輩たちに心より感謝致します。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

3. 大会収支報告

大会収支報告

収入		
項目	金額	備考
大会補助費	150,000	
大会参加費	252,000	3000×84名
交流会費・弁当代	157,000	130,000+27,000
広告料	35,000	
合計	594,000	

支出		
項目	金額	備考
印刷代	174,615	プログラム、発表要旨集録、ポスター等
送料	48,050	大会案内・プログラム等の発送
謝礼・アルバイト代等	80,000	
交流会費・弁当代	208,050	
備品・消耗品	42,405	封筒・名札・文房具等
合計	553,120	

総収入 : 594,000 円
 総支出 : 553,120 円
 差額 : 40,880 円

4. 日本国際教育学会第22回総会議事録

日時：2011年9月10日（土）13時20分～14時40分

会場：首都大学東京南大沢キャンパス 6号館 1階 101教室

開会の辞

江原理事より開会の辞があり、大会開催校等に対する謝辞があった。

第22回大会実行委員長挨拶

岩崎大会実行委員長より挨拶があり、参加者に対する謝辞等があった。

学会長挨拶

前田会長より挨拶があり、会員数が312名となったことが報告された。また、本研究大会の発表者数が40名に上ったことが報告された。来年3月の研究会（東京未来大学）、秋季研究大会の開催について言及があり、多くの会員の参集依頼があった。

大迫事務局長から74名の出席・委任状があり、本総会が不成立となり、学会規則第5条3項が適用される旨が述べられた。

議長選出

挙手がなかったため、事務局案として大庭由子会員・渡辺幸倫会員が選出され承認された。

I. 報告・承認・決議事項

(1) 2010年度（2010年8月1日～2011年7月31日）事業報告

(i) 2010年度活動報告（資料①）

大迫事務局長より、資料①に基づいて報告があった。

(ii) 2010年度決算報告（資料②）

大迫事務局より、資料②に基づき報告があった。

(iii) 2010年度会計監査報告（資料②）

監査報告書に栗栖監査、平岡さつき監査らの押印が確認され、また、事務局長の報告年月日が2012年8月26日付であると加筆修正された上で報告が承認された。

(iv) 紀要第17号編集委員会報告(資料③)

佐藤紀要編集委員長より、資料③に基づき、紀要第17号の編集および発行について報告がなされた。

(2) 事務局次長の選任について

前田会長より事務局体制の強化のため、田中真奈美会員が選任されたことが報告され承認された。

II. 審議事項

(1) 2011年度(2011年8月1日～2012年7月31日)事業計画(案)

(i) 2011年度活動計画(案)(資料④)

大迫事務局長より資料④にもとづいて説明があり承認された。また、学会WEBサイトの外国語版に関して、ポルトガル・スペイン両語のサイトを含めて立ち上げることが追加され承認された。

(ii) 2011年度予算(案)(資料⑤)

大迫事務局長より、資料⑤にもとづいて説明があり予算案が承認された。

(2) 学会規則の改正および学会関連規程の制定について(資料⑥、⑦)

岩崎副会長から資料⑥⑦にもとづいて説明があり、承認された。なお、本規程は本年の10月10日から施行されることが付加され承認された。

(3) 紀要編集規程の改正について(資料⑧)

佐藤紀要編集委員長より資料⑧にもとづいて改正点に関する説明があり、原案通りに承認された。

(4) 選挙管理委員長および選挙管理委員の選任について

前田会長より、田中会員の事務局次長選任にともない、新たに大野由加里会員の選任が報告され承認された。

(5) 2011年度春季研究会の開催校について

大迫事務局長より、東京未来大学にて3月の土曜日に開催予定であることが説明され承認された。金塚理事より挨拶があった。

(6) 第23回秋季研究大会の開催校について

大迫事務局長より、9月29日・30日に国際教養大学で開催されることが説明され承認された。山崎会員が在外研究中で不在のためビデオレターによる挨拶と国際シンポジウムの開催などについて詳細な報告があった。なお本来配布資料があったが、郵送日程の都合上、間に合わなかったため割愛された。

(7) その他

- ・山口理事からニューズレター作成に関する協力依頼があった。
- ・江原理事より今後の学会活動計画に関して、各国地域の研究グループ支援の可能性も視野にいれるべきではないかと意見があった。これに対し、前田会長より、今後、研究グループとラウンドテーブルなどを連携して検討し、継続審議していきたいとの見解が述べられた。

閉会の辞

朴理事より本総会ならびに本研究大会に対する感謝の意が述べられ総会が締められた。

(文責：金塚基)

日本国際教育学会 2010年度(22期) 会計決算・監査報告
(2010年8月1日から2011年7月31日)

収入の部

費目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,318,776	1,318,776	
会費	900,000	1,083,000	正会員85万円、学生会員20万5千円、賛助会員・名誉理事1万円、その他1万8千円
利子	10	203	
紀要販売	60,000	147,720	『国際教育の展開と多文化共生』9万4千720円、新刊3万6千円、既刊5千円、その他1万2千円
寄付金	0	0	
雑収入	0	0	
合計	2,278,786	2,549,699	

支出の部

費目	予算	決算	備考
交通費	5,000	15,000	事務局・紀要編集交通費補助
消耗品費	40,000	1,504	はがき代・封筒代・文房具など
郵送費	100,000	53,220	紀要発送・メール便など
会合費	40,000	24,548	理事会会場費・弁当代
大会開催補助費	150,000	300,000	秋季大会補助費(第21・22回)
庶務費	60,000	4,785	払い戻し、振込手数料
印刷費	550,000	427,425	紀要印刷料・複写費
予備費	50,000	9,300	HP作成ソフト
謝礼費	0	20,000	講演料
次年度繰越金	1,233,786	1,643,917	
25周年積立金	50,000	50,000	2010年度分
合計	2,278,786	2,549,699	

25周年積立金

費目	予算	決算
前年度繰越金	50,000	50,000
今年度積立金	50,000	50,000
合計	100,000	100,000

次年度繰越金(収支-支出分)

	金額
郵便局(普通)	44,495
郵便局(会費納入用)	1,076,571
銀行(普通)	350,739
現金	172,112
合計	1,643,917

上記の通り報告致します。

年 月 日

事務局長

大迫章史



監査の結果、正確であったことを認めます。

2011年 9月 9日

会計監査

平岡 さつき



2011年 8月 27日

会計監査

栗栖 淳



日本国際教育学会 2011年度(23期)予算案
(期間 2011年8月1日から2012年7月31日)

収入の部

費目	予算	詳細
前年度繰越金	1,643,917	
会費	900,000	正会員×70口 学生会員×40口
利子	200	郵便貯金利子・UFJ銀行預金利子
紀要販売	60,000	機関・個人購読 3000×20口
寄付金	0	
雑収入	0	
収入合計	2,604,117	

支出の部

費目	予算	詳細
交通費	100,000	事務局・紀要編集・会計監査交通費補助など
消耗品費	40,000	封筒・切手・用紙代など
郵送費	100,000	紀要発送・メール便代など
会合費	40,000	理事会・紀要編集委員会の会場費・弁当代など
大会開催補助費	150,000	大会開催補助費
庶務費	60,000	コピー・手数料
印刷費	550,000	紀要・ニューズレター印刷・編集費
予備費	50,000	
次年度繰越金	1,464,117	
25周年記念企画積立金	50,000	2011年度分
支出合計	2,604,117	

25周年記念企画積立金

前年度繰越金	100,000	2009年度分・2010年度分
--------	---------	-----------------

6. 2011－2012年度役員一覧

役職	氏名	所属	担当	国籍
会長	前田 耕司	早稲田大学		日本
副会長	岩崎 正吾	首都大学東京	規程・研究大会	日本
理事	江原 裕美	帝京大学	春季研究会	日本
同	岡田 昭人	東京外国語大学	規程	日本
同	金塚 基	東京未来大学	理事会議事録	日本
同	佐藤 千津	東京学芸大学	紀要編集	日本
同	志賀 幹郎	電気通信大学		日本
同	ロバート・アスピノール	滋賀大学	研究	英国
同	裘 曉蘭	上海社会科学院 青少年研究所	ニューズレター	中国
同	鄭 任智	早稲田大学（非常勤）	国際交流	台湾
同	朴 三石	朝鮮大学校	春季研究会	朝鮮
同	グレゴリー・プール	同志社大学	研究	米国
同	山口 アンナ 真美	北海道教育大学 （非常勤）	ニューズレター	ブラ ジル
特任理事	牛渡 淳	仙台白百合女子大学		日本
特任理事	楊 武勳	台湾国立暨南国際大学		台湾
事務局長	大迫 章史	仙台白百合女子大学		—
事務局次長	児玉 奈々	滋賀大学	ホームページ	—
同	田中 真奈美	東京未来大学		—
事務局幹事	金井 里弥	東北大学（院生）	会計	—
同	木田 竜太郎	早稲田大学（院生）	連絡調整・研究大会	—
同	小野寺 香	東北大学（院生）	会計	—
同	白幡 真紀	東北大学（院生）	名簿担当	—
紀要編集委員会 委員長	佐藤 千津	東京学芸大学		—
同 副委員長	入澤 充	群馬大学		—
同 幹事	西村貴之	首都大学東京		—
会計監査	栗栖 淳	国土舘大学		—
同	平岡 さつき	共愛学園前橋国際大学		—
選挙管理委員長	羽田 積男	日本大学文理学部		—
同 委員	新井 浅浩	城西大学		—
同	大野 里香子	東京都立足立新田高等学校		—
同	土屋 千尋	帝京大学		—
名誉理事（国内）	石川 啓二	山梨大学		—
名誉理事（海外）	—	—		—
顧問	—	—		—

事務局だより

1. 連絡先・ご所属変更を至急お知らせ下さい。

4月からの新年度を迎え、所属変更にともない会員資格に変更がある方、連絡先が変更になる方がおられましたら、至急事務局長までメール(ohsako@sendai-shirayuri.ac.jp)にご一報下さい。

2. 新入会員紹介

2010年度第2回理事会(2010年9月11日開催)、第3回理事会(2010年11月6日開催)、第4回理事会(2011年4月30日開催)、第5回理事会(2011年7月25日開催)、2011年度第1回理事会(2011年9月10日開催)の常任理事会で入会を承認された新入会員の皆様をご紹介します。

	氏名	所属	会員の種別	国籍
1	Chang Ying-Hsiu	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
2	李秋儀	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
3	呉欣郡	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
4	劉緯綸	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
5	Lin Chih Yi	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
6	陳嘉惠	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
7	余啟名	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
8	蔡靜儀	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
9	Braden Rico	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
10	水野智仁	国際教養大学	正会員	日本
11	森岡修一	大妻女子大学	正会員	日本
12	ツェリン	首都大学東京(院生)	学生正会員	中国
13	林原慎	福山平成大学	正会員	日本
14	佐々木亮	中央大学大学(院生)	学生正会員	日本
15	ブレンジャルカル	東京外国語大学(院生)	学生正会員	中国
16	李成熙	東京外国語大学(院生)	学生正会員	韓国
17	井谷泰彦	早稲田大学(院生)	学生正会員	日本
18	佐々木俊介	東京大学(院生)	学生正会員	日本
19	布川あゆみ	一橋大学(院生)	学生正会員	日本
20	中田麗子	ベネッセコーポレーション	正会員	日本
21	坂内夏子	早稲田大学	正会員	日本
22	小野寺香	東北大学(院生)	学生正会員	日本
23	福田誠治	都留文科大学	正会員	日本
24	ウイラシンハ・ディリニ・ハサントィカ	首都大学東京(院生)	学生正会員	スリランカ
25	Yi Rung Chen	台湾国立暨南国際大学(院生)	学生正会員	台湾
26	Sheng Han Su	台湾国立暨南国際大学(院生)	学生正会員	台湾
27	張佳妮	筑波大学(院生)	学生正会員	日本
28	Wu Chun Fan	台湾国際暨南大学(院生)	学生正会員	台湾

29	Liu Chun Chen	台湾国立暨南国際大学(院生)	学生正会員	台湾
30	Chimay Bin	台湾国立暨南国際大学	正会員	台湾
31	Tang Thi Thliy	台湾国立暨南国際大学(院生)	学生正会員	台湾
32	Hsieh Fu Ying	台湾国立暨南国際大学(院生)	学生正会員	台湾
33	小川佳万	東北大学	正会員	日本
34	津曲真樹	世界銀行	正会員	日本
35	羽田積男	日本大学	正会員	日本
36	ボルジギン・ムンクバト	千葉大学(院生)	学生正会員	中国
37	佐藤裕紀	早稲田大学(院生)	学生正会員	日本
38	岡崎享恭	京都産業大学	正会員	日本
39	新井浅浩	城西大学	正会員	日本
40	玉井康之	北海道教育大学釧路校	正会員	日本
41	西村貴之	首都大学東京	正会員	日本

日本国際教育学会紀要『国際教育』第18号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では、本学会紀要『国際教育』第18号の発刊に際し、自由投稿論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします。投稿希望の会員は以下の要領にしたがって投稿して下さい。投稿要領に反する原稿は受理できませんので、投稿原稿の送付期限（2012年3月1日必着）や執筆分量をご確認下さい。なお、投稿に際しては本学会公式ウェブサイト（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/>）の「学会紀要」のページで「紀要編集規程」とあわせて、投稿要領に関する最新情報を必ず確認するようにして下さい。

1. 投稿要領（論文・その他）

- (1) 投稿資格は、日本国際教育学会の会員に限られる。投稿に際して、入会審査が完了していること、当該年度の会費を完納していることが投稿の条件となる。
- (2) 論文のテーマは日本国際教育学会活動の趣旨に沿うものとする。
- (3) 掲載論文は、口頭発表の場合を除き、未発表のものに限る。
- (4) 使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。
- (5) 他の学会誌や研究紀要などへの投稿原稿と著しく重複する内容の原稿を本誌に併行して投稿することは認めない。
- (6) 前号に論文が採用された者の連続投稿は原則として認めない。
- (7) ①原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5ポイントとし、A4版を使用することとする。
②和文、中文は、1行40字×40行(1ページ1,600字)で印字する。英文はダブル・スペース22行とする。
③執筆分量は以下の表の通りとする。

投稿原稿の別	概要	ページ数制限
論文 (Research Paper)	国際教育に関する理論的知見を伴う研究成果	和文 10 ページ以内 英文 23 ページ以内 中文 6 ページ以内
研究ノート (Research Note)	論文に準じ、断片的に得られた研究成果、調査成果	和文 5 ページ以内 英文 15 ページ以内 中文 3 ページ以内
調査報告 (Research Report)	国際教育に関する調査の報告	
教育情報 (Research Information)	国際教育の参考となる研究・実践・政策等に関する情報	
資料紹介 (Data)	国際教育の参考となる資料の紹介	

また、英文原稿は American Psychological Association's Manual of Style, 4th Edition に準拠する。

- ④題目は 12 ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて 30 字以内、英語の場合は 15 語 (15 words) 以内とする。
- (8) 投稿原稿には、和文論文には英語 500 語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨 (A4×1 枚程度。字数は (7) に準拠する) を添付し、原稿と要旨を各 3 部 (うち 2 部は複写可、匿名とする) 提出する。電子ファイルのみによる投稿は受け付けない。
- (9) 投稿原稿は 2012 年 3 月 1 日 (必着) までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、修正のうえ再審査、不採択が決定され、投稿者に通知される。再審査の場合、定められた期間内での原稿修正の権利が与えられる。なお、採用原稿に関しては原稿 (ハードコピー) とともに電子ファイル原稿 (英文要旨を含む) も提出すること。
- (10) 投稿に際しては、十分に推敲を行うこと。特に外国語を使用する場合、誤字・誤記あるいは文法的誤りのないように十全の準備を行い投稿すること。

2. 問い合わせ先/原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学 教員養成評価プロジェクト推進本部 佐藤千津研究室気付

E-mail : chizus@u-gakugei.ac.jp

(お問い合わせはなるべくメールでお願いいたします。)

ADDITIONAL GUIDELINES FOR ENGLISH MANUSCRIPTS CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 18

Submissions to the 18th edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2012. Authors making submissions in English should review the following guidelines:

1. Manuscripts can include research articles and research notes, both of which must be original work of the author(s). Journal of International Education (JIE) considers all manuscripts on the strict condition that they have been submitted only to JIE, that they have not been published already, nor are they under consideration for publication elsewhere.
2. Authors whose papers were accepted in the previous year cannot submit in the present year.

3. Papers should be double spaced, submitted on A4-size paper, contain twenty-two lines per page, and be no longer than twenty-three pages in total length. Margins on the top, bottom, and sides should be no shorter than 2.5 centimeters (i.e., one inch).
4. For general guidelines on appropriate style and format, please refer to the Publication Manual of the American Psychological Association.
Example:
Smith, J. (2000). *The educational challenges of the new century*. New York: Broadway Publishing.
Pavil, S. (1997). Capitalizing on cultural capital: The movement of knowledge through corporations. *Harvard Business Journal*, 14 (1), 654-675.
5. Three copies should be submitted to the Editorial Committee for review. One copy should include the author's name, address, institutional affiliation, and phone number on the cover, and the other two should include only the title in order to maintain the author's anonymity. An electronic version should also be included.
6. All English manuscripts must include a Japanese abstract that is one page in length (A4 size).
7. All manuscripts will be accepted without revisions; accepted conditionally, with stipulations for more revisions; or rejected. In the case of conditional acceptance, the Editorial Committee reserves the right to reject a manuscript after revisions have been made if revisions are deemed insufficient. Once the manuscript is accepted for the publication, author should submit the revised electronic version (including Japanese abstract).
8. All authors are encouraged to have their manuscript copy-edited before submitting the paper, especially authors for whom English is a foreign language. Writers who submit manuscripts that have typographical and/or grammatical errors risk having their papers rejected. Electronic-only versions of manuscripts will not be accepted.

Please send all submissions by postal mail to:

Dr. Chizu Sato, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501
Japan

Inquiries about the journal may be directed to Dr. Sato by e-mail (chizus@u-gakugei.ac.jp).

日本国際教育学会紀要『国際教育』第18号

(2012年春季研究会推薦論文) 投稿要領

日本国際教育学会紀要『国際教育』第18号に掲載する「2012年春季研究会推薦論文」を募集いたします。投稿される方は以下の要領に従って投稿して下さい。投稿資格は、「2012年春季研究会」で発表を行った会員のうち、2012年春季研究会実行委員会から優秀発表者として推薦され、かつ投稿を希望する方に限られます。また当該年度までの会費を完納していることが条件となります。投稿要領に反する原稿は受理できませんので、投稿原稿の送付期限や執筆分量をご確認下さい。なお、投稿に際しては本学会公式ウェブサイト (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/>) の「学会紀要」のページで「紀要編集規程」とあわせて、投稿要領に関する最新情報を必ず確認するようにして下さい。

1. 投稿要領

- (1) 論文のテーマは春季研究会での発表と同一のものとする。
- (2) 論文の内容は発表内容に基づき、春季研究会での質疑応答の成果を反映させたものとする。
- (3) 投稿論文は、春季研究会での発表を除き、未発表のものに限る。
- (4) 使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。
- (5) ①原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5ポイントとし、A4判を使用することとする。
②和文、中文は、1行40字×40行(1ページ1,600字)で印字する。英文はダブル・スペースで22行とする。
③執筆分量は、以下の通りとする。

投稿原稿の別	内 容	ページ数制限
2012年春季研究会推薦論文	春季研究会で推薦を受けた発表内容を発展させたもの	和文5ページ以内 英文15ページ以内 中文3ページ以内

また、英文原稿はAmerican Psychological Association's Manual of Style, 4th Edition に準拠する。

- ④題目は12ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて30字以内、英語の場合は15語(15 words)以内とする。
- (6) 投稿原稿には、和文論文には英語500語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨(A4判×1枚程度。字数は(5)に準拠する)を添付し、原稿と要旨を各3部(うち2部は複写可、匿名とする)提出する。電子ファイルのみによる投稿は受け付けない。
- (7) 投稿原稿は2012年3月末日(必着)までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、一部修正により採択、不採択が決定され、投稿者に通知される。修正再審査の場合、定められた期間内での原稿の修正の権利が与えられる。なお、採用原稿に関しては原稿(ハードコピー)とともに電子ファイル原稿(英文要旨を含む)も提出すること。

2. 問い合わせ先/原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 教員養成評価プロジェクト推進本部 佐藤千津研究室 気付

E-mail : chizus@u-gakugei.ac.jp

(お問い合わせはなるべくメールでお願いいたします。)

日本国際教育学会 2012 年春季研究会のお知らせ

実行委員長：金塚基 同事務局長：田中真奈美（東京未来大学）

春季研究会のご案内を申し上げます。震災により、昨年の春季研究会が中止に至ったため、2012 年の春季研究会は本学会における第 2 回目の研究会となります。「若手を育てる」「研究内容についての実質的な議論ができる時間を多くとる」という目的に向け、ご満足頂けるような研究会にすべく努力致しますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

特に優秀な発表は春季研究会から学会紀要へ推薦致します。

自由研究発表を中心に活発な議論が交わされますよう、多くの方々のご参加をお待ちしております。皆様ふるってご参加ください。

1. 日時

2012年3月3日（土）13時00分～17時30分（予定）※理事会 12時00分～
（プログラム等の詳細は2012年2月中にウェブサイトにてお知らせ致します。）

2. 場所

東京未来大学 〒120 - 0023 東京都足立区千住曙町34-12
路線・マップ、右記をご参照下さい。 <http://tokyomirai.ac.jp/access/>

3. 参加費・懇親会費等

参加費（発表者のみ）	2000円
懇親会費	4000円

4. 自由研究発表および研究会参加申し込み

自由研究発表申し込み期限	2012年1月31日（火）
研究会参加申し込み期限	2012年2月24日（金）

発表希望者は「氏名、所属、連絡先（携帯電話番号とメールアドレス）、発表タイトル、懇親会参加の有無」、その他の参加希望者は「氏名、所属、連絡先（メールアドレス）、懇親会参加の有無」をメール本文に記載し、実行委員会事務局長（田中真奈美）までEメールにてお申し込み下さい。郵送の場合は上記項目を記載の上、下記住所までお送り下さい。なお発表者は会員に限られますので、非会員で発表をご希望の方は入会手続きを<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/nyukai.html> よりお済ませ下さい。なお後日、発表者には、発表要旨（A4×2枚）をご提出頂きます。

5. 学会紀要への推薦論文の提出締め切り日について

学会紀要に推薦されました場合、完成原稿の投稿締め切りは紀要編集の都合上、紀要編集委員会まで、**3月31日（土）（必着）**となります。締め切りまでの期間が短いので、ご注意願います。

6. お問い合わせ先

春季研究会用メールアドレス tanaka-manami@tokyomirai.ac.jp
住所: 〒120 - 0023 東京都足立区千住曙町 34-12
東京未来大学こども心理学部 田中真奈美

日本国際教育学会第23回研究大会のお知らせ

日本国際教育学会第23回研究大会は、下記の要領での開催予定となっております。現在、山崎直也実行委員長には、国際シンポジウムをはじめ、魅力的なプログラムを企画して頂いております。会員の皆様におかれましては、ご参加下さいますようお願い致します。

場所：国際教養大学（秋田県秋田市雄和椿川奥椿岱 193-2）

日時：2012年9月29日（土）、30日（日）

編集後記

2011年は東日本大震災をはじめ、世界中で自然災害が多い一年間で、色々と考えさせられる年でした。

そして、あの東日本大震災からちょうど半年、首都大学東京で第22回研究大会が開催され、多くの先生方や院生が研究発表をしている姿はとても印象深いものでした。そこには日本人の精神力の強さ、どの困難も乗り越えられる力を感じました。

さらに、余震や放射線汚染などが心配される中、海外から多くの会員にご参加頂いたことは、日本への応援メッセージのように感じ、心がとても温まりました。最後に、このニューズレターの編集にあたり、多忙の中、ご協力頂いた会員の皆様に心より感謝申し上げます。

（ニューズレター編集担当：山口アンナ真美）

日本国際教育学会 Newsletter No.23

編集発行：日本国際教育学会 代表 前田耕司

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/>

発行所：〒981-3107 宮城県仙台市泉区本田町 6-1

仙台白百合女子大学 大迫章史研究室 気付

TEL：022-372-3254

E-mail：ohsako@sendai-shirayuri.ac.jp

発行年月日：2011年12月20日